

大原中だより

さいたま市立大原中学校

☎ 048-831-5397

FAX 048-835-1357

第 3 号

はつらつとした学校、地域に輝く学校

平成28年6月1日(水)

メールアドレス:ohara-j@saitama-city.ed.jp ホームページ:http://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

誇りに思うこと

校長 中島 俊尚

5月に入り、私自身感動することが多くありました。それを「誇りに思うこと」という文章にまとめてみました。

9日、離任式がありました。生徒代表、3年生杉浦さんの力強い言葉、式の最後にみんなで歌った校歌、本当に感動しました。さらに転退職された先生方からはたくさんの激励の言葉をいただきました。その中に、大原中の生徒は、勉強だけでなく、部活動も委員会活動も、学校行事もみんな一生懸命がんばる、そこがいい！というものがありました。うれしかったです。そんな学校の校長であることを誇りに思います。

12日の朝、さいたま市長が大原中学校を訪問してくださいました。朝練の様子、正門・昇降口前での登校の様子、各学級の朝の会の様子、さらには本校自慢の学校図書館などを熱心に見学していただいた後、学校概要の説明をさせていただきました。朝のあいさつ運動に取り組んでいた山下生徒会長をはじめとする生徒会本部役員にヌウを渡していただきました。ヌウは今、校長室前の廊下のところに展示してあります。市長の学校訪問に同席していただいた白川PTA会長さんが直後のPTA理事会において、次のようにあいさつされました、「本日、さいたま市長の学校訪問があり、私も同行させていただきました。とても勉強になりました。学校図書館をはじめとした施設の充実、生徒の学力の高さ、部活動の活躍、さらにはさいたま市内における大原中学校の位置づけ等、多くの刺激をいただいたと同時に誇らしい中学校だと感じました。」心に響くお言葉でした。



安全を第一に考え、登下校時の服装を制服に徹底してからおよそ1か月が経ちました。学校総合体育大会が近いのに、もっと練習したいのに、しっかり着替えてくれて感謝しています。夕方6時を過ぎたころになると、本校の教職員が正門に立ち、下校時の服装を確認しながら、「さようなら、気を付けて」と生徒に声をかけるようになっていきます。忙しい中、仕事の手を止めて正門付近に立ち、温かく生徒を見守る教職員の姿をとってもありがたく、誇らしく思っています。

そして今、もうひとつ誇りに思うことがあります。それは三浦広美先生のことです。三浦先生は本校の国語科の先生でした。在任中にご病気になり、一昨年度惜しまれながらご退職になりました。とても美しい字を書く、スポーツの大好きな素敵な先生でした。三浦先生と私は、私が新任の教員としてスタートした本太中学校で同じ国語科の教員として切磋琢磨した間柄でした。その時の縁もあって三浦先生の結婚式には司会もさせていただきました。そんな三浦先生が、大原中学校の生徒のために毎月書道の作品を送ってくださっています。それを事務室の山田さんが第2会議室前の掲示板に美しく展示してくれています。「大原文芸館」と称されたそのコーナーを、私はいつも感無量で眺めています。三浦先生はご病気のため、かなり体力を消耗されているそうです。しかし、大好きな大原中学校の生徒のために、力をふりしぼって季節感のある美しい書を送ってくださっています。先日お礼の電話をかけたとき、三浦先生はこう話されていました、「私は大原中学校で初めて思う存分国語の授業をすることができました。大原中学校に来る以前は生徒指導がとてみたいへんでやりたいことが全くできませんでした。それが大原中では全然違いました。国語の授業に熱心で、やる気満々な生徒のみなさんに心から感謝しています。」毎月心を込めて送ってくださる作品はその感謝の気持ちの表れだそうです。そんな三浦先生のことを私は誇りに思っています。

